

上尾歴史散歩

249 上尾の古い地名をこう

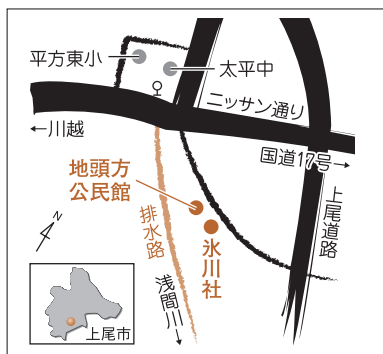
■地頭方地区を縦断する

「ぐるっとくん」を太平洋中学校南で下車し、十メートルも東進すると、右側に暗渠で南へ伸びる一条の排水路を見ることが出来る。この排水路は浅間川の最上流で、戸崎地区で鴨川に流入しているが、平方領々家村と地頭方村の古くからの境界である。明治初期の資料で、長さ十二町余り(約一・三キロメートル)と記されたものが、この排水路に相当するとみられる。この排水路は南北に直線化しており、しかも村境になつてはいるが、直線の村境はあまり例がなく大変珍しい。この村境は領家と地頭が並んでいるところから、鎌倉時代に荘園内で地頭が勢力を増し、荘園の土地を領家と地頭に折半する、いわゆる「下地中分」に擬える見方もあるが、残念ながら資料は皆無で不明である。それにしても、地頭方と領家方が隣接して、やや人工的な直線の境界線を持つている事例は県内には他になく、大変珍しい事例といふことになる(『上尾市史第二巻』・『武蔵国郡村誌』)。



社殿の前に立つ大きな「狛犬さん」

で右折して東南に進むが、この道は明治初年資料では「大宮道」と記されたものである。この交差点辺りの小字は「三ツ塚」であるが、同様な小字は平方領々家村にもある。地頭方村にもいくつかの小字があるが、「カラン堂」という珍しいものもある。村の東南にある小字であるが、片仮名表記でどんな漢字を当てるのか不明である。この地区はかつて広大な山林を持つていたが、この小字名は「鶏久保」で、現在は自動車工場の敷地になつてはいる(『武蔵国郡村誌』)。



三ツ塚の交差点から東南へ五百メートル余り歩き、梨畑に囲まれた細い道を右折すると地頭方公民館がある。隣接して墓所があるが、この辺りは明治初期に廃寺になつた正円寺の跡で、同寺は新義真言宗の寺院で境内に薬師堂があったといわれる。この薬師堂は、現在も公民館脇に残されている(前掲書)。

元の道に戻り百メートル余りも東南方向に歩くと、右手に氷川社の森が見えてくる。この神社は大きな狛犬が安置されていることで知られるが、旧地頭方村の鎮守である。明治初期資料では境内地は六百六十三坪(二千八百七十七平方メートル余り)、祭礼は十月十九日と記されている。ここでは「狛犬さん」に拝顔してから神社に詣でることになるが、近年住宅地化が進んでいるこの地区でも、鎮守の森だけは変わらぬ静寂空間が保たれている(前掲書)。

(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

市の人口・世帯

(平成23年11月1日現在)

22万7,339人

男/11万3,557人
女/11万3,782人

※前月より29人減。

9万8,065世帯



○に入る文字や数字を当ててください。

アップーの○○○○が新しくなりました。

(ヒントは表紙)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、12月21日(水)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は1月号のこのコーナーで。前号の答えは「アップー」でした。ご応募ありがとうございました(応募者30人)。

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス“ぐるっとくん”をご利用ください。



本紙は、再生紙を使用しております。